

[09] 宍道湖の水草繁茂の現況について

國井 秀伸（島根大学汽水域研究センター）

2009 年秋から宍道湖で突発的に繁茂し始めた水草の 2013 年度の様子を紹介する。表1に 2013 年度の宍道湖における水草とシオグサの様子を列記した。2012 年には夏季に広く水面を覆っていた水草は、2013 年夏季にはほとんど水面に姿を見せなかった。その理由として、2013 年は、春先の高塩分の影響でシオグサが繁茂する一方で水草の成長が長期間抑制されたと考えられた。特にオオササエビモの成長は大幅に遅れたが、塩分の低下とともに水草の勢いが増し、10 月下旬の空撮で南岸、北岸ともにパッチが確認された。10 月時点での水草の優占種はこれまで通りオオササエビモであったが、シオグサが優占していた 7 月までは水草の優占種はツツイトモであったことから、これら 2 種の水草は塩分耐性に違いがあることが推察された。宍道湖の表層塩分は 2013 年 6 月に 7.6psu を記録した後、2014 年 3 月の 1.3psu にまで急激に低下した。10 月 28,29 日に宍道湖の湖岸域を、セスナ機を用いて空撮した結果、10 月時点では水面にまで達していないものの、水面下には水草が多数存在していることがわかった。2013 年にオオササエビモの成長を抑制したと考えられる塩分が 2014 年 3 月時点で 2psu を切っていることから、低塩分がこのまま続けば、今年度、水草は一昨年のように大繁茂するであろうと予測された。

表1. 2013 年度の宍道湖における水草とシオグサの様子。

5 月下旬頃	大橋川でもシオグサ、アオノリが繁茂し始める
5 月 31 日	南岸、北岸とも湖岸沿いの湖面には水草見られず
6 月 28 日	宍道湖の浅い場所をシオグサが覆う
7 月 4 日	調査地(梢庵東根尾)でシオグサ枯死開始。硫化水素発生(測定)。水草はツツイトモが優占していたが、オオササエビモも湖底付近では存在。どちらも水面まで到達せず。水草の生えている場所の湖底環境は良好
8 月 2 日	玉湯鼻東でパッチ状に水草(オオササエビモなど)が繁茂していることを確認
8 月 27 日	玉湯(No.19)でオオササエビモ湖底から高さ 40~50cm ほどに成長。パッチ多数あり。但し、根尾では水草、シオグサともに少ない
9 月 24 日	秋鹿(No.9)でオオササエビモを観察。No.19 では水面に到達したオオササエビモのパッチあり。根尾(梢庵 2)でオオササエビモのパッチを観察
10 月 19 日	サイドスキャンソナーと水中カメラを用いて玉湯と根尾にて水草の分布を測定。水草が回復していることを確認
10 月 28, 29 日	宍道湖岸空撮によりパッチ状の水草を南岸、北岸ともに確認
10 月 29 日	アオコ少し浮く
12 月	調査地(梢庵東根尾)でオオササエビモの他リュウノヒゲモの生育を写真にて確認
1 月	まだ枯死していないオオササエビモあり